

研 究 だ よ り

第4号
令和元年 9月9日発行
横手支援学校 研究部

共通実践事項について

今回は「M 学び合う姿を生み出す工夫をしよう」について、お伝えします。

M 学びの姿を明確にイメージしよう

たとえば・・・ 単元の個別目標

自分の役割が分かり、進んで準備や製作の活動に取り組む。

自分の役割が分かるというのはどういうこと？

進んでというのはどういう姿？

どこの学部、学年、どんな授業でもあてはまりそうな目標だなあ・・・



たとえば・・・ 指導案 教師の手立て

上手に製作するポイントに気付くことができるように、言葉掛けをする。

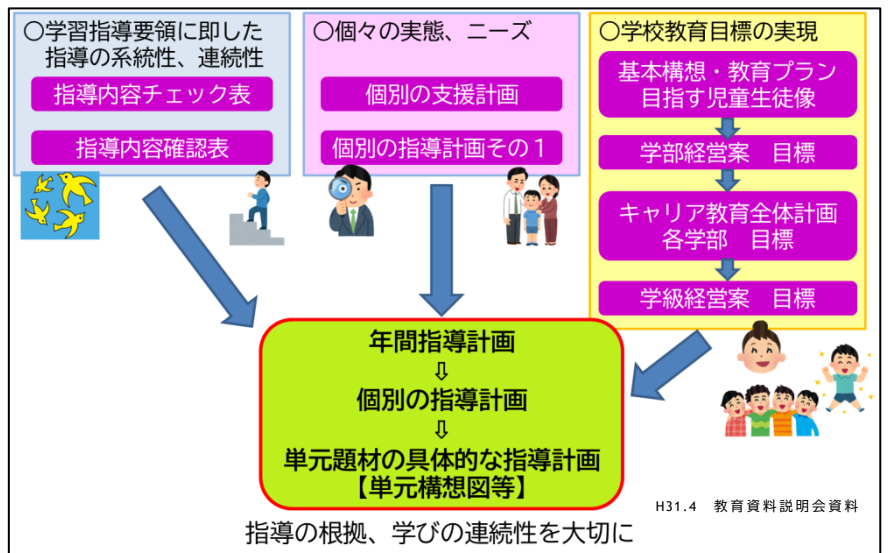
どんなポイントについて、どんな言葉掛けで伝えるの？

授業の様子が
見えてこない・・・



どう目標を具体化するか

具体的な目標設定のためには、学習指導要領の目標・内容、実態把握を基にした個々の実態やニーズ、そして学校教育目標の実現を目指した各計画の目標などを統合し、しっかりとした指導の根拠をもつことが大切です。



この学年の、この時期に、この教科で、この子どもに、何に学んでほしいのか？

中学部2学年合同 生活単元学習 「チャレンジ2年生～宿泊学習に向けて～」

今年度の授業研究会、口火を切っていただいたのは中学部2学年でした。宿泊学習を機会にあいさつについて考え、生活の中で実践しようとする単元でした。実際に挨拶をしたり、ビデオで様子を見合ったりすることで、「気持ちのよいあいさつ」をするためのポイントは何かを考えて整理し、実践してみるという学習活動が展開されていました。話し合いのポイントや子どものつぶやきを付箋などにキーワードで書き残すなど、やりとりや思考を視覚化することで、生徒たちがじっくりと「気持ちのよいあいさつとは」ということを考えることができました。また、友達の前であいさつをして、評価しあうという活動がありましたが、「声が小さい!」「目を見てない!」などの手厳しい評価ではなく、「言葉で話すのが苦手だけど、お辞儀はとても良かった」「最後の『…ました』ははっきりと聞こえたよ」など、相手に寄り添う評価が多く出されました。普段からの友達との関係性、教師のかかわりがこの場面に表れているのと同時に、「良いあいさつとはポイントを守るのではなく、『自分と相手の関係性で成立する』」というあいさつの本質をしっかりと実感することができていたのだと感じました。



書籍紹介



小学部職員室に
実物を展示しています!

こども六法

これまで、インターネット上にデータとしてのみ掲載されていた「こども六法」が8月20日に書籍として刊行されました。書籍化にあたって、イラストやコラムなども追加され、気軽に法律について知ることができます。法律を易しい言葉に言い換えて、分かりやすく解説されており、子どもたちがいじめや虐待から身を守ることを目的に作られた書籍ですが、「法律ではこうなっているんだよ。」「このように決まっているんだよ」と教えてあげることによって理解し、腑に落ちるタイプの児童生徒にとっても使える良い一冊だと思います。品切れ状態が続いており、定価よりも高い値段の通販サイトなどもありますので、ご注意ください!